

セムコープ・インダストリーズ(SCIL)

「ブラウン(石油)からグリーン(環境)へ」の事業再編計画の下、浮体式および屋上の太陽光発電を国内外で拡販中
シンガポール | 発電所 | 業績フォロー

BLOOMBERG KEP:SCI | REUTERS SCIL.SI

- 2021/12期1H(1-6月)は、売上高が前年同期比25.7%増、純利益が黒字転換、調整後純利益でも同69.1%増と堅調に回復した。
- セグメント別純利益は、環境事業のサステナブル・ソリューション部門が前年同期比10%減、伝統的エネルギー部門が同46%増。
- 「ブラウン(石油)からグリーン(環境)へ」の事業再編計画の下、浮体式や屋上の太陽光発電を国内外で積極的に推進している。

What is the news?

8/6発表の2021/12期1H(1-6月)は、売上高が前年同期比25.7%増の32.90億SGD、純利益が前年同期の▲42百万SGDから46百万SGDへ黒字転換。49%持分の中国重慶宋家の石炭火力発電所に係る2.12億SGDの減損損失を計上したこと、および昨年9月に事業を切り離した石油掘削装置(リグ)建造子会社のセムコープ・マリン(セムマリン)に関連した前年同期の損失などの一時的項目の影響を除く調整後純利益では、同69.1%増の2.52億SGDだった。

1Hにおける事業セグメント別の一時的項目控除前の純利益は以下の通り。①再生可能エネルギー事業および総合都市ソリューション事業から構成される「サステナブル・ソリューション部門」は同10%減の87百万SGD。その内、(a)再生可能エネルギー事業は前年同期比27%減の24百万SGD。インドにおいて天候面の風力不足により風力エネルギー資産当たりの効率が低下したことが響いた。また、(b)総合都市化ソリューション事業は同2%減の63百万SGD。中国のコンドミニウム・住宅プロジェクトが不振だった。②「伝統的エネルギー部門」は同46%増の1.85億SGD。シンガポールとインドにおけるエネルギー需要の高まりと利益率の向上が業績に寄与した。③「その他事業部門」が前年同期の▲100万SGDから13百万SGDへ黒字転換だった。

How do we view this?

同社は昨年9月、子会社だったセムコープ・マリン(セムマリン)の全保有株61%分を自社の株主に譲渡してリグ事業から撤退。同社から切り離されたセムマリンはシンガポール政府系の複合企業ケッペルのリグ事業子会社ケッペル・オフショア・アンド・マリンと統合交渉中だ。

更に今年5月、「脱石油」を軸として太陽光や風力の発電所開発・運営のほか環境配慮型の都市生活といった環境事業を強化して「サステナブル・ソリューション事業部門」とする事業再編計画を発表。同社はこの戦略的計画を「ブラウン(石油)からグリーン(環境)へ」と呼んでいる。今年7月、政府公共事業庁の水処理施設であるシンガポール西部のテングー貯水池に発電パネルを設置した発電能力6万ワットの浮体式太陽光発電施設の操業を開始したほか、シンガポールおよびベトナムで製造業者向け屋上太陽光発電の販売にも積極的に取り組んでいる。

業績推移

※参考レート 1SGD=81.69円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
売上高(百万SGD)	11,689	6,735	5,447	5,688	5,973
当期利益(百万SGD)	347	247	-997	289	387
EPS(SGD)	0.17	0.12	-0.57	0.15	0.22
PER(倍)	11.41	16.17	-	12.76	9.02
BPS(SGD)	3.36	3.40	1.87	1.98	2.16
PBR(倍)	0.58	0.57	1.04	0.98	0.90
配当(SGD)	0.04	0.05	0.04	0.05	0.06
配当利回り(%)	2.06	2.58	2.06	2.58	3.09

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) 0.05 (予想はBloomberg)
 終値(SGD) 1.94 2021/8/30

会社概要

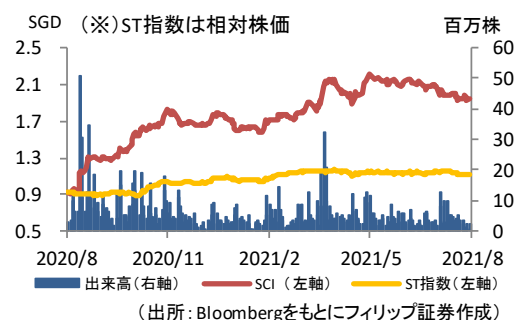
1998年に2つの政府系コングロメイトの合併によって設立。最も古い前身は1963年に設立したシンガポール初の商用造船所であるジュロン・シップヤードである。

2020年9月、石油掘削装置(リグ)建造子会社のセムコープ・マリン(セムマリン)を完全に切り離し、2021年に従来のエネルギー事業、海洋掘削事業、都市開発事業の3事業から、環境事業を強化する事業再編計画の下、「サステナブル・ソリューション」、「伝統的エネルギー」、「その他事業」の3事業セグメントに再編された。

今後の事業の柱とするサステナブル・ソリューション部門は、再生可能エネルギー事業と総合都市化ソリューション事業から構成される。同社は1万2,800メガワットを超える容量のエネルギーポートフォリオを有するなか、世界に跨る太陽光、風力、エネルギー貯蔵を含む再生可能エネルギーが3,300メガワットを超える。また、総合都市化ソリューションでは、アジア全体で1万2,000ヘクタール以上に及ぶ開発プロジェクトのポートフォリオを擁する。

企業データ(2021/8/31)

ベータ値 0.90
 時価総額(百万SGD) 3,487
 企業価値=EV(百万SGD) 10,406
 3ヵ月平均売買代金(百万SGD) 8.5



主要株主(2021/8)

(%)
 1. テマセク・ホールディングス 49.29
 2. VANGUARD GROUP 2.38
 3. DIMENSIONAL FUND ADVISORS LP 1.19

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘

+81 3 3666 6980

kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>